



青少年を育てる 小美玉市民の会



堅倉小学校 朝のあいさつ運動

健全育成は地域の方で



青少年を育てる
小美玉市民の会
会長 篠根 捷應

卒業 入学 進級 就職など多情多感な青少年にとって大きな転機の時節となりました。親しかつた友人との別れや、新しい友との出会い、組替えによる級友構成への不安もあるでしょう。

こうしたことに起因した不登校ひきこもり、貧困、虐待など若者が抱える問題は深刻化しています。この課題に対応するためには、地域のみんなの目で見守り支援する活動が欠かせません。

市民の会の事業活動は2年近く休止状態にせざるを得ませんでした。一部慎重に感染予防しながら開催しました。子ども達は楽しみに待っていてくれました。休日に友達や大人とのふれ合いの中で家庭や学校で味わえない感動をして満面の笑顔がありました。令和5年度は支部事業、部会活動も積極的に展開しながら、地域の力で健全育成活動に寄与したいと思います。

未来を担う青少年のために小美玉市民の皆様の一層のご協力をお願い申し上げます。



堅倉小学校

校長 大関 律子

堅倉小学校では、令和3・4年度の2年間、11月のいばらき教育月間に合わせ、「相手に優しく思いやりしぐさ（思いやり名人）」を目指した「かたから思いやり月間」を実施しています。

今年、「堅倉小をもっと楽しく居心地のよい学校にするために」をテーマに、各委員会の児童がテーマに向けての活動を考え、思いやりの輪を全校に広げようがんばりました。

標語の募集や、関連した新聞記事を要約し、電子黒板での掲示、「ありがとうメッセージ」や「人権メッセージ」の掲示、放送をしました。

また、「いじめ防止」のために児童が作った動画や絵本の読み聞かせを堅倉TV（校内放送）で放映しました。休み時間を返上して活動する姿にたのもしさを感じたものです。この活動で私が最も心に残ったのは全員が書いた「人権メッセージ」です。子どもたちは、自分が家庭や地域でとても大切にされているのを感じているようでした。

その愛情や思いやりが子どもたちをまっすぐに成長させていることを実感したのです。

9月の防災訓練や、11月の「あいさつ名人」を目指すあいさつ運動においても、児童は、青少年を育てる小美玉市民の会堅倉支部の方々をはじめ地域の方々の思いを感じ取っていました。

今後も堅倉地区の皆様のご支援とご協力をいただきながら、児童の健全育成に努めていきたいと考えております。



9月 防災訓練
(段ボールベッド体験)



4年生 車いす体験



5年生 稲刈り



6年生 朝のボランティア

青少年を育てる小美玉
市民の会って？

家庭部会

広報部会

総務部会

健全育成部会

地域7支部

本会は様々な事業を通して、青少年の健全な育成を図ることを目的に、4部会7支部にて、市内各地で活動しています。

本会の運営は、皆様方からの会費（1世帯200円）賛助会員会費および市からの補助金により運営されております。会員の皆様には厚くお礼を申し上げますとともに、行政区長並びに住宅管理者の皆様にも特段のご尽力をいただいていることに、併せてお礼申し上げます。

青少年健全育成標語 優秀作品が決定しました！

「青少年の健全育成に関すること」をテーマに、市内各中学校1年生・義務教育学校7年生の皆さんから標語を募集しました。市教育研究会人権教育研究部にもご協力いただき、総数 304 作品の中から、20 点の作品を優秀作品として選考しました。たくさんのご応募ありがとうございました。

美野里中学校

守ろう命助けよう命大切な命
(石川 道也)

友達の笑顔を作る思いやり
(加藤 由惟)

友達の大事な個性認め合おう
(木村 流星)

ありがとうあなたの笑顔で私も笑顔
(見目 美聖)

ありがとう言えば心に笑顔咲く
(齋藤 愛菜)

家族には一人でなやまず話そうよ
(島田 琉斗)

広げよう明るいあいさつ笑顔の輪
(関 琴音)

認めよう多様性見つけよう可能性
(永井 樹)

その言葉相手がきずつく言葉かも
(長谷川 悠斗)

小川南中学校

たくさんの笑顔あふれるありがとう
(飯島 虹色)

その言葉言われた相手は苦しいよ
(飯田 一城)

消さないで命の灯大切に
(内山 旬人)

ネット民画面の奥は人がいる
(初沢 擧太)

小川北義務教育学校

コロナでも心のきよりはとらないで
(加藤 碧空)

認め合いほめて伸ばそう良いところ
(中谷 翼)

目に見えない便利と危険は紙一重
(平島 英太)

玉里学園義務教育学校

その言葉だまされしないで近くにキケンがひそんでる
(木田 結彩)

助け合うそれがみんなの思いやり
(小泉 昊)

一人きりかかえこまずに相談を
(中原 小町)

きっぱりと甘い誘いを断る勇氣
(若泉 歩明)

※優秀作品数は各校の応募作品数の割合に準じて決定しています。

立志記念品を贈呈しました

市内中学校2年生・義務教育学校8年生の立志をお祝いし、立志記念品を贈呈しました。



美野里中学校



小川南中学校



小川北義務教育学校



玉里学園義務教育学校

総務部会長あいさつ
 総務部会長
 香取 憲一

今年も青少年を育てる小美玉市民の会の広報誌をご覧いただきまして誠にありがとうございます。

令和4年度の総務部会の事業につきましても、コロナ禍の中で引き続き制約された事業内容でありましたが、立志の記念品贈呈や青少年標語募集等々、各事業の先にある小美玉市の子ども達、生徒さん達の明るく元気な笑顔や挨拶に、私達大人は常に心洗われまた、未来を担う若者達への希望と期待が、今の日本社会への不安に対し「一抹の光」を当ててくれていている事に大きな喜びを噛みしめているのは私だけではないと思います。

少子化の波は小美玉市も否応なく飲み込み、様々な問題も生じておりますが、多様化を受け入れる昨今の社会情勢に遅れる事なく、メンバー同連携を密にして、引き続き市民の皆様への御理解・御協力を活動の大きな糧として、事業の推進に取り組んで参りたいと思っております。



家庭部会

ファミリークッキングを開催しました！

令和4年12月4日(日)にファミリークッキングを四季健康館で開催しました。メニューは12月らしくクリスマススイーツです。午前と午後の2部制開催とし、8組ずつ計16組のご家族にご参加いただきました。参加していただいた皆様、ありがとうございました。



慣れない手つきで頑張っています



完成後の記念写真撮影

家庭部会長あいさつ
 家庭部会長
 前野 恵美子

新型コロナウイルスとの戦いは4年目に入りました。3年ぶりに、行動制限のない正月となり、家族だんらんの時を過ごした人も多かったことでしょう。

12月4日(日)3年ぶりにファミリークッキングを開催することができました。感染対策をしながら日常生活を取り戻しつつある時期の開催。参加募集をしたところ、大勢の家族の参加があり、午前午後の2回開催となりました。

挨拶のあと、「早寝早起き朝ごはん」の大切さを説明、その後クッキングスタート。「クリスマススイーツをつくらう」カップショートケーキをつくり完成。園児や保護者の和気あいあいとしたファミリークッキング大成功でした。

朝ごはんを、家庭のコミュニケーションの場にしませう。家族みんなが忙しい毎日、なかなか難しいかもしれませんが、朝の時間の使い方を工夫して、できることから少しずつ意識して楽しい食事づくりをしていきましょう。

第15回小美玉市子ども議会

主催／青少年を育てる小美玉市民の会・小美玉市学校長会



子ども議会の様子は、広報おみたま3月号や、市内各公共施設に置いてあります記念誌をぜひご覧ください！

健全育成部会

第15回小美玉市子ども議会

次世代を担う子どもたちが、議会活動の一部を体験する事業で当会及び小美玉市学校長会が主催となり実施しています。

今年度は3年ぶりの開催となり、市内7校の小学校・義務教育学校6年生から代表児童16名が、市長をはじめとした市執行部に対し、立派に質問を行いました。

少年の主張作文

少年の主張作文は、毎年茨城県青少年育成協会が県内の中学生を対象に募集しているものです。

県内の多くの中学生が、社会や世に向けての意見や未来への希望、家庭や学校生活・地域活動などを作文にして応募しています。



令和4年度に応募していただいた美野里中学校の島田モモさん、佐藤加菜さんに記念品を贈呈しました。



健全育成部会長あいさつ

健全育成部会長

高木 喜代志

第15回子ども議会が令和5年2月6日(月)に小美玉市学校長会と共催で行われました。これは市内各小学校・義務教育学校6年生を対象に将来を担う子どもたちが、市政の仕組みと議会の活動を理解し、子ども目線の意見や要望を住みやすいまちづくりに役立てたいと思いを催しております。実際の議場を使い市長をはじめ、市の執行部の皆さんが子どもたちにも分かりやすい言葉で答えてくださいました。回を重ねるごとに子どもたちの質問や意見も、深いところまで見ていることに感心させられました。

ご指導に当たってくださいました先生方をはじめ、市議会、市の執行部及び関係者の皆様方の協力に感謝申し上げます。

事業後に実施したアンケートでは、今回初めて試みた、ライブ中継について「あったほうが良い」20名中17名、「どちらでも良い」2名、「無回答」1名という結果でした。

その他のアンケート結果も含めて、今後の子ども議会の事業に活かせるよう努めたいと思います。今後もご参加・ご協力よろしくお願ひします。

支部活動



小川北支部 支部長 小田 和広

前年度に引き続き、小川北支部の支部長そして、PTA 副会長、教育後援会会長を務めさせていただきました。

令和4年度、小川北支部は、野田小、上吉影小、下吉影小、小川北中の4校が統合し、1つの学校、小川北義務教育学校として生まれ変わりました。活動としては、学校での出来事が多いのですが、やはり新型コロナウイルス感染症の影響が大きいです。

私なりに考えて、前年度と同様、通学路安全点検をしました。歩道に沢山の草が生えており、子どもたちが自転車で登下校する時、正面が見づらく、ケガでもしてしまったら大変な事になるので、県の道路管理課に草刈りをお願いしました。

これからも子どもたちのために、できる事をしてあげたいと思います。



小川南支部 支部長 大原 光浩

小川南小学校では、環境美化活動や学校周辺の清掃活動等を行い、小川南中学校では、朝のあいさつ運動等を実施しました。

特に、朝のあいさつ運動は、両校の生徒及びPTA役員と市民の会が一体となり、活動を行いました。

未だ新型コロナウイルス感染の終息が見えない中ではありますが、子ども達がこれまで通り学校生活を送れるよう引き続き保護者、先生、地域の方々のご支援をいただきながら共に学びあい成長していくことを願っております。



竹原支部 支部長 廣瀬 孝夫

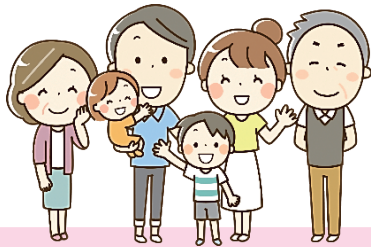
竹原支部の活動は、竹原学区子ども会育成会行事の後援をメインとして実施しています。

今年度も、新型コロナの影響で活動が制限される中、9月11日に『お楽しみ会』が開催され、その活動を後援しました。

内容としては、ダチョウ王国の「移動動物園」を竹原小学校に開設し、感染予防を徹底した上で、33名の子どもたちが、ひよこや亀などの小動物と触れ合い、歓声をあげていました。

同じ経験を通して、友達・親子の『ふれあい』を築くことができました。





私たちの

羽鳥支部 支部長 栗原 好浩



今年に入り社会情勢も少しずつ動きが出て、支部活動においても定期的な役員会を開催することができるようになってきました。

少しずつ前が見え、9月16日に「こころふれあう羽鳥の会」共催で小学生を対象に防災訓練を実施、子どもたちにロープワークの実践指導を行いました。また、11月にはあいさつ運動で小学校と中学校で子どもたちとのふれあいを感じました。寒い中でしたが、ほぼ全会員の皆さんの参加をいただきました。

今年の研修活動では、長谷川幸介先生の講演会を実施し、その後恒例となっている忘年会も開催しました。

2月25日(土)、好天に恵まれ、多数の親子の参加のもと、3年ぶりに「クイズ・ウォークラリー」を開催することができました。

堅倉支部 支部長 磯辺 寛

今年度においてもコロナウイルス感染拡大の為、行事等も制限される中、9月4日に学区コミュニティ合同による学区防災訓練を堅倉小学校の児童を対象にした「防災教室」に変更し実施をいたしました。

当日は、国土交通省・原子力機構・小美玉市消防・小美玉市社会福祉協議会・小美玉市役所等々各方面の方々に、ご協力ご支援をいただきました。小学校にもご協力をいただき、当日は日曜日でしたが登校日にしていただき全児童にいろいろな防災体験をしていただきました。段ボールベッドの組み立て、土石流体験車、大雨体験車、防災かるた、きれいな水をつくる体験、AED体験等々楽しみながら防災について学んでいただきました。

また、11月20日市役所駐車場にて「かたくら朝市」を実施いたしました。イトウ製菓様・柴高区の小森様にご支援をいただき「お菓子・人参の詰め放題」をたくさんの方々に楽しんでいただきました。また売上金42,819円を小美玉市社会福祉協議会へ寄付をさせていただきました。ご協力いただいた皆様、誠にありがとうございました。



納場支部 支部長 篠原 祐一



令和4年度の活動としまして、9月に総会及びグランドゴルフ大会に対する協議を行いました。

それから、育成会に助成し、7月にサマーレクリエーションと称し、密集を避けるため三部制にして縁日を行いました。

また、納場小学校にさつまいもの苗を提供いたしました。昨年よりたくさん収穫できたと子どもたちも喜んでおりました。

11月12日にはグランドゴルフ大会を開催し、30名の方に参加していただきました。コロナ前の半分の数だったので、対象学年が4、5、6年生でしたが、来年は3、4、5、6年生まで引き下げて開催したいと考えております。

私たちの支部活動

玉里支部 支部長 野口 勝可



年間を通して玉里学園義務教育学校において、朝のあいさつ・声かけ運動を先生方と一緒に実施しました。また、子ども会育成連合会の球技大会や読書推進活動、玉里学園の緋秋祭などへの支援を行いました。

地区内におけるコミュニティ活動との連携については、玉小学区の世代間交流球技大会を後援しました。

2月26日(日)、コスモスにおいて、市子ども会育成連合会との共催で教育講演会を実施しました。講師は日本セルフエスティーム普及協会の林望美氏で、「子どもを幸せにする自己肯定感とは」と題して、それがなぜ人生において大切なのか、どのように育てられているかなどについて講演され、有意義でした。



意見交換会



各学校と各支部で意見交換会・あいさつ運動を実施しました

普段から子どもたちと接している学校の先生と、子どもたちのニーズなどについての情報交換等を行う場を設けることにより、本会の事業活性化につなげることを目的に、各学校と当会各支部で、意見交換会を実施しました。
また、11月のいばらき教育月間に合わせ、学校と合同でのあいさつ運動を実施しました。

あいさつ運動



ご多忙の中、ご協力・ご参加いただいた皆様ありがとうございました。

青少年を育てる小美玉市民の会 広報紙<第29号>

発行日 令和5年3月31日
発行 青少年を育てる
小美玉市民の会
発行責任者 会長 篠根 捷應
連絡先 小美玉市文化スポーツ
振興部 生涯学習課
電話 0299-48-1111
FAX 0299-48-1199

〈広報部会 信田 悟

誰かが経験したことのない3年間を過ごした青少年が次の一歩を力強く踏み出せるように見守っていききたいものです。

(第27号に掲載)
人はいつから走るのを止めてしまふのだろうか!?小さな子は母親の手を振り切っても走り出そうとする。しかしながらこの3年間走り出すことさえ制限され、マスクの中に本当の自分(自分の素顔・表情・本音)を隠しての生活を余儀なくされた青少年の思いはどうであったのだろうか?真の友達ができただけならいい、もっと沢山の友人を作り助け合い、思いやりや感謝の気持ちに触れたかった方もいるのではないのでしょうか。
その中で生徒たちが主体となつて「小川南中祭」を開催したという素晴らしい事例がありました。

編集後記